

戦争をなくしたい！

濱田洋子（一九三六年生まれ）

私が幼稚園に入園した年に戦争が始まりました。

一九四一年十二月八日、日本はアメリカに宣戦布告をしたのです。

兄に召集令状がきました。吹雪の北京駅（中国・ペキン）から千人針を身につけて出征して行きました。

その朝、兄は国民学校二年生の私を抱きしめて、

「お父さんお母さんを頼んだよ・・・」と伝えました。

一九四四年十一月十二日、兄は南支那の野戦病院で戦病死しました。

ある日突然、公報（戦死の知らせ）が届きました。

「お兄ちゃん！ 死んだらいやだあ・・・」と、私は大声で泣きました。

一九四五年八月十五日、天皇陛下の「終戦を告げるお言葉」を

学校の講堂に集ってラジオで聴きました。よく聞こえませんでした。

先生から「日本が戦争に負けた」ことを知らされました。

戦争に敗れて、外地にいる日本人は内地（日本）に引揚げねばなりません。

その時九歳だった私は、中国の済南市（サイナン）に住んでいました。

一九四六年二月末やっと引揚げの一団が結成され、引揚船の待つ港に向かって出発することになりました。父は仕事の引継ぎのため中国に残りました。

私は、母が帯芯で作ってくれたりユックサックの底に、少しの写真、通知表、私だけの宝物を入れ、その上に洋服の着替えを詰められるだけ詰めました。

たくさんの思い出を残し、みんなリュック一つで貨物列車に乗り込みました。途中、屋根のない貨物列車に乗り換えたり、石ころや土ほこりの道を歩いて何日もかけて港にたどり着きました。

道中、何を食べていたのか覚えていません。いつもお腹をすかしていました。お母さんのお乳が出なくて死んでしまった赤ちゃんがいました。

九州の佐世保に引揚船が着いた時は、日本の土を踏めると喜び合いました。引揚者宿舎で、すいとんやおにぎりが食事に出来ました。おいしかったこと……。

以上が、私の子ども時代の戦争体験です。今年は、戦後六十五周年です。

今は戦争のない平和で文化の豊かな日本ですが、世界には、戦争をしている国や核兵器を持つ国があります。皆で力を合わせて平和な世界にしていきましょう。

孫に伝えたい

「子どもが巻き込まれた戦争」

和田三千代

ばあば は一九三五年、東京に生まれました。

私が幼稚園の年長組の時、（一九四一年十二月八日）
日本はアメリカとの戦争を始めました。

国民学校生（小学校）になって、文房具も買えなくなり、
おもちゃや人形も紙のものばかりになりました。
学校では、兵隊さんへの慰問袋に手紙を書きました。

空襲が激しくなり「子ども達は疎開するように」と命令されました。
私は三年生の秋、熊谷の親戚の家に一人で預けられました。
さびしくてさびしくて、毎晩布団をかぶって泣きました。

お正月に親達のところに戻ったとき、
「私一人で生き残ったら、どうやって生きていったらいいの？
死ぬなら一緒に死にたい」と言って、親を困らせました。

一九四五年三月、東京大空襲の後、
父親の生まれた広島県の山の中の家に家族いっしょに疎開しました。
父は仕事があつて、東京に残りました。

国民学校の校庭はサツマイモ畑に変わりました。

「亀谷国民学校 若桜隊 四年 隊員を命ず」という
辞令をもらいました。

子どもも軍隊の一員になったのです。

一九四五年八月六日、父は出張で広島に行き、
原子爆弾を受けました。

十二日に家にたどり着き、

十八日午前一時に亡くなりました。

八月十五日にやっと戦争は終わりました。

戦後の生活は食べるものも少なくて、

とても大変でした。いつもおなかをすかしていました。

でも、何とか生き延びました。

決して戦争をしてはいけません。

これはばあばの一番大きな願いです。